

令和5年度 併設型小中一貫校 豊平学園北広島町立豊平小学校 学校評価自己評価表

1 経営目標・教育目標・経営方針等

<<校訓>> 「継続は力なり」 (Practice makes perfect.)

【豊平学園教育目標】豊かな体徳知を身につけ、豊平を想う児童生徒の育成

【小学校学校教育目標】豊かな体徳知を身につけ、豊平を想う児童の育成

<<めざす子ども像>>

- ◆とことんやる (基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な児童)
- ◆よりよく学び続ける (学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた児童)
- ◆ひとの気持ちを考え行動する (思いやりや社会性など豊かな心を持った児童)
- ◆らぶ(love)ある (郷土に誇りと愛着を持った児童)

【経営方針】

併設型小中一貫校・学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)としての特性を生かし、「地域の教育力を生かした児童生徒の力を最大限に伸ばす学校」をめざす。

- 義務教育学校への移行
- 保護者・地域と共に創る「ふるさと学習」の充実
- 地域へ貢献する学校づくり

協働

2 中期・短期目標、評価計画、評価・達成状況 《年間を通して計画的に評価し改善を図っていく》

項目	評価計画				自己評価					学校運営協議会評価		改善方策	
	中期経営目標 (小中一貫)	短期経営目標 重点	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 (年間)	中間 (目標)	中間 (達成)	達成度	評価	結果と課題の分析	評価		コメント
信頼される学校	コミュニティ・スクールを生かし、地域の願いを大切に信頼される学校・地域に貢献する学校づくりを推進する。	ふるさと学習・地域交流の推進 義務教育学校移行への条件整備	○年間計画に基づき、地域の教育力を活用した「ふるさと学習」を実施する。 ○学校運営協議会(兼 義務教育学校開校準備会)と緊密に連携する。	・児童アンケートの肯定的評価の割合 ・保護者アンケートの肯定的評価の割合 ・夏季休業中の小中合同準備部会の設定 ・学園の経営計画書作成(12月末)	90% 88% 100%	90 88	92.3 66.7	102.6 75.8	A C	○児童アンケート「豊平のことを学習することが楽しい。もっといろいろな学習がしたい」という設問における肯定的評価92.3%(昨年7月91.7%)。地域の「ひと」や「もの」とつながる学習を通して児童の意欲や肯定感が高まっている。 ○保護者アンケートの肯定的評価 66.7%(昨年度同時期77.1%)。発信が学校だよりに留まった。 ○義務教育学校移行へ向け、各部会による経営計画書の作成や全職員による先進校視察などを進めた。保護者・地域への発信を充実させて義務教育学校移行への理解度を上げる必要がある。	B	ほぼ適正である。	○「ふるさと学習」は継続して実施できているので、その活動や成果を学級・学校だより以外でも発信し、保護者の理解につなげる。 ○学校運営協議会は計画的に実施できている。議論の内容を地域・保護者や教職員と共有しながら、開校準備を着実に進める。
たくましく健やかな体	生活の基盤となる健康な体、気力・耐力の育成を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図る。	基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な児童の育成 学習への構えづくり 体力の底上げ	○生活リズムを整えるための取組(年3回) ○忘れ物0の取組の実施 ○道徳授業参観(生活習慣に関すること) ○健康朝会での啓発活動 ○専門性を生かした体育の授業づくり ○体力づくり(走ること・投げるなど)等、体育・業間運動などでの取組 ○指定日の外・体育館での遊びの取組	・生活リズムに関わる目標が達成できた児童の割合 ・忘れ物0の期間中の達成率75%以上 ・新体力テスト総合B判定以上 ・1日1回は外や室内体育館での遊び・運動をしている児童の割合	80% 90% 65% 80%	80 90 65 80	86.0 87.0 57.1 72.5	107.5 96.7 87.8 91.3	A B B B	○「生活リズムを整える取組(9/11~9/15)」の結果は「朝ごはん97%、起きる時刻88%、寝る時刻86%」。スマホやゲーム等の時間が高学年になるにつれ増加し、生活が不規則になる実態もある。健康朝会等で児童への啓発は行っているが、保護者も含めてこれを継続し、よりよい生活習慣から学習への構えづくりにつなげる必要がある。 ○「忘れ物0週間」における達成率 87.0。初めての試みだったが継続して学習への構えにつなげる。 ○新体力テスト総合B判定以上の児童57.1%(昨年度56.1%)、C判定以上87.6%(昨年度88.6%)。特に投げる力と走る力(瞬発力・持久力)に課題。 ○1日1回体を動かす児童の割合72.5%。本年度、義務教育学校移行を見据えた時間制の変更により業間運動や休憩の時間が減少した。業間運動の時間の保障や外遊びの推奨に加え、家庭や地域で体を動かす機会の確保等も視野に入りたい。	A	適正である。	○寝る時刻が遅くなり生活が不規則になる実態に対して、PTAや学校だより・保健だよりなどで児童・保護者への啓発を継続する。よりよい生活習慣が学習の構えにつながるため方策を含めて伝えたい。 ○中間評価以降、新体力テストの2回目を実施。最終評価に反映させたい。課題の見られた投力の向上に向け、ボールを使う環境を整える。 ○1日1回体を動かす児童の割合増加を目指し、天候に左右されない業間運動プログラムなど運動機会の確保、家庭への呼びかけなどを行う。
豊かな心	社会人として必要な資質や能力の基礎を築き、たくましく生きる力を育成する。	思いやりや社会性など、豊かな心を持った児童の育成 3つの約束 自主的活動 規範意識の向上	○挨拶重点週間を設定する。 ○「とよひら」挨拶を奨励する。(職員の積極的な肯定的評価及び児童間相互評価) ○委員会、係活動を充実させる。□□名人の認定活動を推進する。 ○小中統一の研究主題の追求を進める。 ○ルールを守る児童の積極的な評価を行う。	・児童アンケートの肯定的評価(自己評価、他者評価)の割合 ・児童アンケートの肯定的評価の割合 ・児童アンケートにおける肯定的回答の児童の割合	80% 80% 85%	80 80 85	88.5 98.1 91.5	110.6 122.6 107.6	A A A	○児童アンケート「自分から進んで元気な挨拶」の肯定的評価は88.5%(「はい」65.4%、「どちらかというとはい」23.1%)。学年挨拶運動の取組は好調だが、一方で朝の挨拶(返事)が相手に届く声ではない児童も多い。児童間相互評価の取組が未実施だが、それと他者評価を加味すると達成度は下がると予想される。 ○児童アンケート「当番・掃除・係活動等を頑張っている」の肯定的評価98.1%(「はい」87.5%、「どちらかというとはい」10.6%)。豊平っ子タイム(児童会中心の全校遊び)では、各委員会の特色を生かした活動がされている。 ○児童アンケートにおける自己評価は概ね高い。善悪の判断や友達との関わりについての意識は高いが、「分かっていること」と実生活が結び付かない実態がある。自分を客観視することの難しさもあると考える。	B	ほぼ適正である。	○アンケート結果と実態にズレが感じられる面もあることから、中間評価以降に挨拶運動を実施。教職員が劇化を通して挨拶のモデルを示したり、学校全体の取組として働きかけたりするなど挨拶強化に取り組んだ。実施後に相互評価アンケートも実施したので、最終評価に反映させていきたい。 ○道徳教育のさらなる充実に努め、自分事として思考を深める過程を充実させる。
確かな学力	学ぶ楽しさを味わわせ、基礎・基本の確かな学力の定着を図る。	学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた児童の育成 学力向上	○主体的・対話的な深い学びの視点による授業改善を進める。 ○算数科において4~6年複数体制または少人数指導を行う。	・単元末テスト平均通過率(算数)80%以上の児童の割合 ・CRTテスト(算数)において全国比105以上の児童の割合	80% 65%	80 65	72.5	90.6	B	○1学期の平均通過率(算数)は72.5%と目標値に届かなかった。4~6年生における少人数指導は効果が見られる。しかし、個の結果をみると数値に大きなひらきがある学年集団も見られた。題意を正しく読み取れていない、下学年でのつまずきが解消されないまま学習が進んでいるなどの要因が考えられる。 ○不規則な生活習慣の影響か、学びに向かう構えや学習に対する意欲が十分ではない児童の実態がある。	A	適正である。	○ペアやグループでの学び合い活動を通して、自分の考えをアウトプット(表出)する場面が増えた。指導者のファシリテートを充実させ「深い学び」につなげる研修を積み重ねる。

評価基準 【自己評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60
 【学校運営協議会評価】 A: 自己評価は適正である B: 自己評価はほぼ適正である C: 自己評価はあまり適正でない D: 自己評価は適正でない E: 分からない